

活動テーマ

『高月の自然から見えるもの』

～知らなかった生き物と環境との関わり、人々の暮らしとの関わり～

実践事例について

草花・昆虫(ホタル)・樹木(地域の大樹)、米作り、野鳥などの校区内の身近な自然・素材にスポットをあて、観察や調査など体験的な活動を継続し、地域のよさを再発見。生き物と環境の関わり、人々の暮らしとの関わりを再認識。啓発活動・学習成果の発信にチャレンジ！

1 はじめに

本校は、豊かな自然環境に恵まれた地域である。しかし、子どもたちがその環境に自由に浸ることは、安全性の問題や遊び文化、生活様式の変化等により少なくなってきた。また、教育課程に位置づけた環境領域の学習を進めてきているが、限られた学習時間の中で地域へ出かけることの困難さや校地内で地域の環境について学習することには限界がある。

しかし、地域の人たちも子どもたちも気づいていない自然があり、このような自然についてもっと平易な形で知ることができるのではないか。また、その中から環境と人々の暮らしや生き物との関わりなどが見えてくるものと考え。

そこで、子どもたちの足下から高月の自然を見つめ直しそこから見えてくるものを追究させたい。

2 実践事例

(1) 3年「ホタルの棲む川について調べよう」

ア ねらい

校区の川のホタル調べを行い、ホタルの種類と数の現状を知るとともに、ホタルの多く棲む川の特徴を理解する。ホタルが多く生息する地域は、そこで生活する人間にとっても、いい水環境であることが分かり、きれいな水環境を作っていくという態度を育てる。

イ 学習内容

- ・自分たちの校区に生息するホタル調べをする。
- ・ホタルが多く棲む川を調査することにより、棲みやすい川の特徴を理解する。
- ・ホタル新聞を作り、地域に掲示し、美しい

川の大切さをPRする。

ウ ホタル地域実態調査



- 第1回目：地域の実態調査
- 第2回目：ホタルの多く棲む川調査

(2) 4年「高月の樹木とそれを守る人々」

ア ねらい

「高月」という地名はかつて、槻(ケヤキの古名)の巨木があったことから「高槻」と表記されたことに由来する。現在でも地域の樹木や大樹(神木)を大切に思い、親しみ、守っている。そんな地域の人々の思いにふれ、今自分たちにできることを考える。

イ 学習内容

- ・やまのこ・校庭の樹木観察から地域の樹木や大樹に興味を持つ。
- ・地域の樹木や大樹の見学、聞き取り調査活動を行う。
- ・地域の樹木や大樹を守る人々の思いを知り、自分たちにできることを発信する。

ウ 樹木調査

高月の樹木や大樹を調べたり見学したりして、地域の方から話を聞く。



(3) 5年「田んぼに学ぼう！田んぼと人々の関わり」

ア ねらい

田植え・稲刈り・脱穀・注連縄作り等の昔の稲作体験などを通して、稲作と人々の暮らしの関わりや、米を食べるためだけでなく、わらや籾殻、ぬかなどもくらしの中で利用し役立ててきたことについて多面的、総合的に捉えていく。

イ 学習内容

- ・体験活動を起点に学習課題を決定する。
- ・課題について本、インターネット、聞き取り等で調べる。
- ・昔の人と自然との関わりについて考える。

ウ 田植え、稲刈り、脱穀、注連縄作り体験

米作り体験を通して、昔の人が自然のものをどれだけ大切にしていたかに気づき、「米」「わら」「籾」「糠」に分かれ、個々に調べ学習を進める。



に気づき、「米」「わら」「籾」「糠」に分かれ、個々に調べ学習を進める。

(4) 6年「ツバメを通して□ 地域を見つめよう」

ア ねらい

自然や地域に関心を持って、地域のツバメの巢の分布調査や聞き取り調査を積極的に行うことを通して、自然と人々の暮らしとの深い関わりに気づき、野鳥に対する理解と愛着を深め、環境を保全するために情報を発信していく。

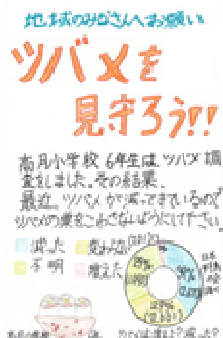
イ 学習内容

- ・野鳥シルエットクイズを通して導入を図り、学習課題を決定する。
- ・高月学区のツバメについて地域実態調査を行う。
- ・全校児童や地域への広報・発信活動を行う。

ウ ツバメ地域実態調査

第1回目：実数調査

第2回目：地域聞き取り調査



(5) 全校での取組

ア 資源回収の実践

春と秋の2回、各自治会毎に親子で資源回収を実施。高月小PTAと児童会が一体となって資源回収に取り組み、雑誌・新聞・アルミ缶のリサイクル活動を推進している。



また、資源回収の日とは別に、学習参観のある週を中心に年間9回程度「アルミ缶・ベルマーク回収週間」を設け、アルミ缶のリサイクル活動やベルマークの回収活動も継続している。



(6) 4年ゴーヤ栽培

理科学習と関連させ、ゴーヤによる「緑のカーテン」をランチルームの外に作り、栽培・観察を行った。これによりランチルームの省エネルギーを推進した。



3 成果と課題

「しが環境リーディング事業」3年目を迎え、各学年とも教材の構成概念・めざす子どもの姿・ねらい等を絞り込み研究を深めることができた。新聞や劇、プレゼンテーション等による全校児童への発信、ポスターや看板、回覧ちらし等による地域への発信も定着し、子どもたちの意欲もさらに向上してきた。また、講師、地域のボランティアの方々とのつながりも確立してきた。

3年生以上は総合的な学習を中心にリーディング事業を行ってきた。総合的な学習の時間の年間計画をもう一度見直し、各学年、中心となる環境教育的な教材・単元を位置づけていきたい。

学校名	長浜市立高月小学校
住所	長浜市高月町高月738
電話番号	0749-85-2002
E-mail	takatsuki-es@nagahama.ed.jp

